

議会のトピラ

TOPICS

議会報告会を開催しました

バラ議会・議場演奏会を開催

委員会の報告

ここが聞きたい 12人が一般質問

特別委員会活動報告

議長交際費・政務活動費の公表

「議員と語る」
議会報告会を
開催



参加者の声

上野 博志さん
(長坂)



予算編成過程での議会の関わり方、公民館のコミュニティセンター化における課題・要望などの問題について、短時間でしたが、真摯に語り合えた会でした。

分科会形式だったので、個人としても意見を述べる機会がかなりあり、落ち着いた雰囲気、討議が行われた良い会合だったと思います。

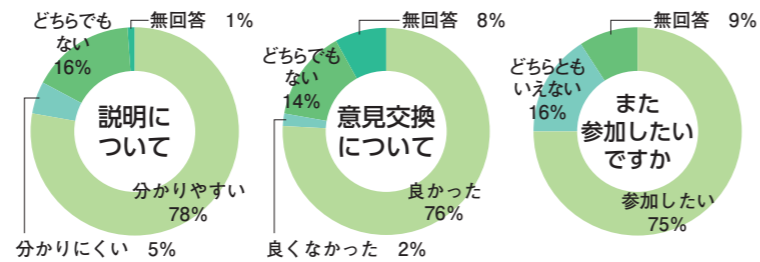
今回参加されなかった皆さんもぜひ参加され、日頃感じていることなどを意見表明される良い機会だと思います。

「議員と語ろう」 議会報告会を開催

4会場で市民65人が参加

参加者アンケート

参加いただいた皆様へのアンケート結果の抜粋です。



4、5人のグループに分かれ、話しやすい雰囲気です



5月19日・20日・21日に、市内4カ所の公民館で「議員と語ろう」第11回議会報告会を開催しました。議会報告会は、議会の活動を知っていただき、意見交換会を通じていただいたご意見を、これらの議会活動や政策提案に活かすことを目的としています。



今回は、兼山公民館、桜ヶ丘公民館、下恵土公民館、土田公民館の4会場で開催しました。各会場では、参加された市民が数名ずつのグループに分かれ、それぞれに議員2名が加わり行いました。

まず議員が議会広報紙「議会のトビラ」を使って、3月議会での平成29年度予算の審議内容や、予算に対して議会が行った提言に対する市の対応についてなどを説明しました。その後、主なテーマを『公民館のコミュニティセンター化について』として、自由な意見交換を行いました。

頂いた多くの意見の中から一部をご紹介します。

公民館のコミュニティセンター化について

▽公民館は地域の人づくり、絆づくりの場でもある。移行後も地域自治会との連携をとって

公民館のコミュニティセンター化とは

市内14カ所の公民館について、より有効に活用できるように、平成30年4月から、社会教育法の枠を外した「コミュニティセンター」となる予定です。これにより、今後「生涯学習の拠点」としての機能を維持しながら「地域づくりの拠点」としての活用が図られていきます。

予算審議について

▽「議会のトビラ」等を活用して、説明をさらに充実させてほしい。

▽予算に対する議会のチェック機能を十分果たすべきである。

議会報告会について

▽議員と話す機会を持つことができよかった。参加者が増えるといい。

▽たくさんの意見が出された。今後の議会としての取り組みに期待する。

いただいた多くの意見を所管の常任委員会に振り分け、今後の議会活動にどう活かしていくのか、協議しました。

その中でも、特に市民の関心も高い公民館のコミュニティセンター化については、所管の建設市民委員会において、今後のスケジュールや現時点での市の方針等の詳しい説明を求めました。今後も市に対して詳細な情報提供を求めながら、市民検討委員会の立ち上げ、パブリックコメントの実施、9月の設置管理条例の上程等について、しっかり注視していくことを確認しました。そして、平成30年4月の移行後も、現在の公民館が、各地域それぞれの「地域づくりの拠点」といえる存在に近づいていけるよう、地元市民の皆さんや市とともに考え、取り組んでいきます。

次回は11月に開催予定です。次号の「議会のトビラ」で、日程や開催場所等についてご案内します。皆さんお気軽にご参加ください。お待ちしております。

第2回定例会 **バラ**議会を開催

平成29年第2回可児市議会定例会を5月30日から6月23日の25日間の会期で開催し、平成29年度一般会計補正予算や子育て健康プラザの設置及び管理に関する条例の制定など、15件を審議しました。



今議会は、バラの最盛期と重なることから「バラ議会」と名付けられており、議場を華やかなたくさんのバラで飾りました。

また、開会日に演奏会を行い、中部フィルハーモニー交響楽団に所属するお二人に、バラにちなんだ楽曲8曲を演奏いただきました。美しいバラに囲まれた議場での演奏会により、心和やかな雰囲気が広がりました。



提出された議案と審議結果

第2回定例会に提出された議案は、承認5件、予算関係1件、条例関係7件、人事2件で、すべて原案のとおり承認・同意・可決されました。



番号	件名	結果
承認	1 平成28年度一般会計補正予算（第6号）の専決処分	◎
	2 税条例の一部改正の専決処分	◎
	3 都市計画税条例の一部改正の専決処分	◎
	4 国民健康保険税条例の一部改正の専決処分	◎
	5 消防団員等公務災害補償条例の一部改正の専決処分	◎
議案	34 平成29年度一般会計補正予算（第1号）	◎
	35 職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正	◎
	36 職員の育児休業等に関する条例の一部改正	◎

番号	件名	結果
議案	37 税条例の一部改正	◎
	38 都市計画税条例の一部改正	◎
	39 手数料徴収条例の一部改正	◎
	40 子育て健康プラザの設置及び管理に関する条例の制定	◎
	41 児童館の設置及び管理に関する条例の一部改正	◎
	42 農業委員会委員の任命	◎
	43 人権擁護委員候補者の推薦	◎

【結果の表示記号】◎全会一致で承認・同意・可決

可児駅前子育て拠点施設の名称が

「子育て健康プラザ」に決定

教育福祉委員会

子育て健康プラザの設置及び管理に関する条例を審査

これまで駅前拠点施設などと呼んでいた可児駅前の施設が、正式に「可児市子育て健康プラザ」として、平成30年春に開館予定です。

Q 委託する事業はどのようなものか。

A 「クッキングスタジオ」「健康スタジオ」「市民活動室」等の施設を有効に活用できるように、市が行っていた事業の一部に、ノウハウを持った民間事業者からの提案を加えて委託していく。

予算決算委員会

全国で7つの先進的文化芸術創造活用拠点に採択されました

文化庁が実施する先進的文化芸術創造活用拠点形成事業に採択されたことを受け、文化振興費の補正を含む一般会計補正予算について審査しました。

Q 昨年度の地域活性化・国際発信推進事業との関連は。

A 昨年度のこの補助事業は、今年度から先進的文化芸術創造活用拠点形成事業に引き継がれる。アララが英国の劇場と行う舞台芸術国際共同制作公演実施事業のほか、外国語・コミュニケーション教育推進事業、ふるさとを誇りに思う教育事業、子どもをはじめ防止事業、文化芸術創造性活用の効果検証調査事業で、5年間継続的な支援を受ける。

総務企画委員会

働きながら育児、介護がしやすい労働環境の拡充

Q 改正後の制度を利用する見込みはあるか。

A 里親制度の関係等で職員から勤務に関する相談を受けた事例はこれまでにないが、今後に備え条例を整える。

家庭的保育事業等に係る固定資産税の軽減

家庭的保育事業等に使用する家屋など、わがまち特例の税軽減の対象が拡充されます。

Q 保育事業の特例割合は税額が最も低くなる課税標準の3分の1になるがその意図は。

A 保育の受け皿に対する支援として、税制上も可能な限りの優遇措置とした。

一般質問

12人が市政を問う

一般質問の紙面は、質問議員が作成しています。ご不明な点は、議員にお尋ねください。

また、議会ホームページでは、インターネットによる動画配信も行っていますので、一般質問の様子を映像にてご覧いただけます。



携帯電話やスマートフォンで下記QRコードを読み取っていただくと簡単に動画サイトに接続できます。



災害時の情報伝達手段の強化を

Q 自治会で防災行政無線地区遠隔装置を導入する場合に、市の補助制度に組み入れることはできないか。

A 災害時に問題となるのは、情報の錯さうである。市からの緊急放送と自治会からの情報が重複した場合、市民の避難行動に混乱を招く恐れがある。従って、市災害対策本部以外からの情報が流れないよう管理し、市民には、防災行政無線を必ず確認していただくように徹底していくため、自治会による地区遠隔装置の設置自体を認める考えはない。

市町村防災行政無線への移行は

Q 災害時の情報伝達手段として現行のMCA無線を市町村防災行政無線システム

に移行していく考えはないか。

A MCA無線導入当初は、送受信の感度に若干の問題点があったが、アンテナを設置するなどの改善を図ってきた。今後も継続して防災訓練などの機会を利用して、送受信状況の改善に努めていくこと及びシステムの移行には多額の経費が必要になることから、今後もMCA無線の活用を継続していく。



かつのまさき 勝野正規



情報伝達手段のMCA無線

要援護者対象の防災の 取り組みは



おおひら けんじ
大平 伸二

Q 要援護者対象の防災教室は。また防災リュックを推奨してはどうか。

A 平成28年度には市、県の主催で小学生、外国籍市民、地区社協等に対して防災教室を開催した。また「生涯学習楽・学講座」に防災メニューがあり、父母会やPTA総会などでも開催が可能であることを、こども健康部や教育委員会とも連携してPRしている。また防災リュックについては市民の自助の取り組みであり積極的推奨はしないが、どんなものであるかといった情報提供を行っていく。

早期復興に不可欠な がれき処理

Q 災害がれきの処理計画は。

A 現在、平成24年度版災害



熊本地震の災害がれき

廃棄物処理計画の見直しを行っており、その中で発生量が最大と想定される「南海トラフ地震」の廃棄物は可燃物、不燃物合わせて11万3千トンと推計。これを分別して1万1千トンをささゆりクリーンパークで焼却処理した場合千百トンの溶融スラグが発生すると推計される。このように災害発生時には大量のがれき発生が予測されるので、がれき類の総量減少のためにも建築物の耐震化が重要だと考えている。

ゴルフのまち可児への 施策の推進



わたなべ ひとみ
渡辺 仁美

Q 市内ゴルフ場の年間利用者数とその増加率は。

A 平成28年は5万3415人。平成23年からの5年間で4万3286人、8・83%の増加率である。

Q 可児市ゴルフ協会が、ゴルフ活性化、ジュニア育成、広報活動の3事業を実施しているが、可児市のPRや他の観光施設への誘客等方策は何か。

A 市内8ゴルフ場へのアンケートで、今年度作成予定の観光ガイドブックやPRスペースの設置は可能かとの問いに7ゴルフ場が協力すると回答。特産品、名産品の販売を推進したいと思うかとの問いに6ゴルフ場が思うと回答。可児産農産物セット、地酒セット、冷凍コロッケ、里芋焼

酎等、コンペを含め、販売を協議したいと考える。

外国籍児童・生徒の日本語 能力

Q ばら教室KAN-I入室状況と増加への対応は。

A 5年前の46名に対し平成28年度は77名である。この増加傾向には指導員の充実と施設の拡充で対処していく。



数々の名産品の一つ、焼酎とぐい飲みセット

虹ヶ丘団地の公園改修を



とみ だ 富田 ますこ 牧子

Q 虹ヶ丘団地では、若い世代の入居が進み、子ども達が増えている。しかし、2丁目のアルプス公園は、大木が茂り、外周からも安全確認が難しく、「マムシ注意」の看板なども立っており、安心して子供を遊ばせられない。また、当自治会からは、中央公園に大型遊具を設置してほしいと2年連続で要望が出されている。

A 大型遊具は高額なので、市内全域から利用者が見込まれる駐車場を有した公園に設置するのが基本としている。アルプス公園については、利用者の安全確保や快適性向上のために、自治会と協議して高木の伐採や剪定を検討する。



大木が茂り屋間も暗い虹ヶ丘アルプス公園

Q 総合会館分室の廃止と跡地利用は

A 総合会館分室は廃止されることだが、廃止時期と跡地の利用は。

A 現在分室に入居している団体は、すべて総合会館に移転。会館の改修工事が終了する平成31年度の早期に移転予定。跡地は、当分の間は駐車場として利用。その後の利用は未定。

コミュニティセンターの機能は



かわかみ ふみひろ 川上 文浩

Q 公民館のコミュニティセンター化のスケジュールは。

A 市民検討委員会において協議、パブリックコメントを経て、9月議会に設置及び管理に関する条例を上程し、来年4月から移行する。

Q 移行後の地域拠点施設としての機能は。

A 幅広い活用を目指し、公民館が生涯学習の拠点であったものを地域づくりの拠点としていく。地域で考え利用しやすい施設としていく。

櫻ヶ丘の開発について

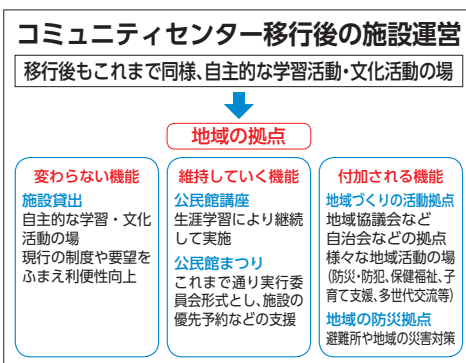
Q 乱開発を防ぐための手立てはあるのか。

A 櫻ヶ丘の用途地域は、県道多治見白川線沿いの近隣商業地域以外は、第1種低層住居専用地域となっており、住宅

などの土地利用以外はできない。宅地開発事業を行う場合は、道路整備を含めて開発許可が必要となる。櫻ヶ丘の未開発区域では、周辺環境と調和した開発の誘導を図ることとしており、良好な市街地が形成されるように適正に指導する。

Q 災害対策は万全か。

A 市と県の指導により沈砂池が2カ所整備された。今後もパトロールを行い随時指導する。



コミュニティセンターのイメージ(本人作成)

市役所窓口の利便性向上を



やまだ よしひろ
山田 喜弘

Q 北海道北見市では、かんたん証明申請という仕組みで、窓口業務の利便性向上に努めている。本市でも取り組んではどうか。

A 本市の市民課では一日平均約150人が来庁し、約350通の諸証明を発行している。市民の利便性を高めるため、平成19年3月から、従来4種類あったそれぞれの申請書を一枚にまとめ、必要最小限の記載で済むようにし、さらにチェック欄を設けるなど簡素化した申請書に変更し対応している。平成24年度からはフロアマナージャーを配置し市民の利便性を考えた窓口体制をとっているので、かんたん証明申請の方法を取り入れる必要はないと考えている。

災害時の避難所等にお湯の確保を

Q 災害対応型紙カップ式自動販売機の設置で、避難所にお湯等の飲料を確保してはどうか。

A 市の施設の一部では災害時に自動販売機内の在庫製品を無償提供してもらえる協定があり、更新時に選択肢の一つとして考慮する。

住民票・印鑑・戸籍・諸証明交付申請書

1 住民票関係
2 印鑑登録証明書

本市の諸証明申請用紙

自治会活動活性化に繋がる支援を



たかぎ まさのぶ
高木 将延

Q 昨年の自治会長研修会で講演された川北氏の提案されている成果発表会開催など、自治会活動の活性化に繋がる支援を考えているか。

A 発表会開催は自治会相互の情報交換や交流を図る上で効果的な方法と考える。自治連合会において視察報告会や勉強会を開催されている事例もあり、自治会の自主性を尊重しつつ、市が持っている情報の提供も含め、可能な範囲で支援していく。

公民館を地域拠点にするために

Q 公民館のコミュニティセンター化が検討されているが、地域活性化にどのように繋がっていくのか。

A 現在公民館を利用されて

いる団体や地域の方が、利用しにくくならないような対応を図るとともに、地域づくりの拠点としての使い方を、その地域の方で考えていただく。早期に市民検討委員会を立ち上げ、具体的な組織や役割等を検討していく予定である。



自治会長研修会での講演の様子

可児市かわまちづくりの推進



やまね かずお
山根 一男

Q 本年3月に「可児市かわまちづくり基本計画」が策定された。その目的は。また今後どのように推進していくか。

A 「かわまちづくり」とは、河川空間とまちの空間の融合を図ることを目的とした国の支援制度である。この度、本市はこの制度への登録認証を受けた。今後、木曽川が持つ魅力、地域資源を磨き上げ、子どもから大人、高齢者まで、皆が楽しめる観光レクリエーションとしても魅力ある「可児市かわまちづくり基本計画」を実現していきたい。可児川に架かる予定の100mの人道橋や、土田渡多目的広場など、今後様々な計画があるが、幅広い市民参画により、効果的なかわまちづくりを推進していきたい。

地域の安全・安心を高めるには

Q 地域の安全・安心という言葉は、いたるところで使われているが、より客観的に、目に見えるような形でその精度を高めていけないか。

A 様々な組織・団体が安全・安心に取り組んでいる。今後、既に取り組みを進めている事業等の精度をさらに高め、市民が暮らしやすさを実感できるまちづくりを推進していく。



木曽川左岸遊歩道 気持ちのいい空間

指定管理1年後の児童館運営は



たはら りか
田原 理香

Q 昨年度から市内4カ所の児童館が民間企業での指定管理となった。可児市児童館の設置条例制定時の説明で、指定管理にする理由については「より地域に密着し、より地域に合った、更により良い運営をする」との話があった。より良い運営とは何か。

A 地域の団体・個人と連携した事業の実施や、施設の規模・特性・周辺の環境を生かした運営である。

モニタリング評価のあり方は

Q 指定管理者の運営を評価するものとしてモニタリング評価があるが、評価項目に前年度比較やさらに良くなったかを評価する項目がない。どう評価しているか。

A 前年度との比較は利用者の増加、利便性向上の項目で見ている。さらにいいものは抽象的な項目なのでチェックはなすが情報交換等を行っている。

Q より質の高い事業を展開してもらったための職員待遇と現場の危機管理はどうなっているのか。

A 待遇等職員管理については、指定管理者が行うものと思っている。事故発生時に確実に連絡が取れることの重要性の啓発に努める。



桜ヶ丘児童センター

さつきバス等の停留所の改善を



の野呂 かずひさ
の野呂 和久

Q 病院や大型スーパー前のさつきバス・電話で予約バスの停留所を見ると、屋根つき座席シートが設置されているところ、座席シートのみ設置されているところ、座席シートのないところと状況は様々である。利用者の身体的負担の点からも改善が必要と考えるがどうか。

A 現在、さつきバス等のバス停に施設管理者の厚意により座席シートなどを自主的に設置していただいている。本市として座席シート等の設置要望もなく、バス停の多くが民地内であることや費用対効果の面から設置は難しいと考えている。

運転免許証自主返納者への
支援策



大型スーパー前に設置されたさつきバス停

Q 本市は、運転免許証自主返納者に対する支援事業として市内を走るバスの乗車回数券(11枚つづり)を一回のみプレゼントしている。一カ月定期券との選択制に出来ないか。

A バス等を免許証返納後の移動手段として選んでもらうきっかけづくりとして支援事業を開始した。今後、市民ニーズがあれば検討したい。

リニア建設工事の進捗と市の対応



いとう けんじ
伊藤 健

Q 岐阜・長野県のトンネル工事では課題が山積みと聞く。リニア中央新幹線建設工事の進捗と市の対応は。また工事情報の開示を。

A 大森非常口の必要用地を財産区が売払いで同意した。工事施工に伴う具体的な実施計画案はJR東海から示されていない。平成26年に示された「環境影響評価書」の内容に変更はない。残土の搬出ルートも未定だ。非常口施設に必要な用地取得を進めていると聞く。市は、住民、行政等がJR東海との間で十分な情報共有、交換ができることが大事だと考える。市のホームページ等で建設事業の工事概要を情報開示できるよう努め、情報共有したい。

サービス付き高齢者住宅の
動向は

Q 今後予定の改正介護保険関連法では利用者負担が増える傾向だ。こうした中、賃貸のサービス付き高齢者向け住宅の設置状況と利用者動向は。

A 3施設で111名が利用し、中・軽度の介護度が8割を占める。介護福祉施設等との役割分担ができてきている。



平成26年環境影響評価書

ジュニア世代の活躍支援を



なかむら さとる
中村 悟

Q 本市の中学校部活動の状況はどうか。ジュニア世代のスポーツ環境についてどう考えているか。ジュニア育成のスポーツクラブを設立できないか。

A 本市の部活動加入率は96%で興味のある部で活動している。また、クラブチーム等に参加し競技に取り組んでいる子もいる。多種多様な受け皿があり、ジュニア世代の皆が目標に向かって頑張っていることを認識している。トップアスリートを養成するクラブ設立は考えていない。

Q 施設の骨組みが立ち上がってきた。近隣住民は多くの人の関心が高くなっている。進捗状況は。

駅前拠点施設の進捗は



駅前子育て拠点施設工事風景

A 工事面では、当初工程どおりに進んでいる。苦情は受けていない。カフェレストランは公募にて選定準備を進める。開館イベントなどの各種企画の窓口は子育て支援課が担当する。選定された民間業者と市関係課による運営調整組織を立ち上げ施設運営・貸館調整など、にぎわいづくりの企画・実施の調整を担う。

特別委員会等の活動報告

議会では、常任委員会以外に、特定の案件について審議する特別委員会やプロジェクトチーム等を設置しています。今回は、2つの特別委員会と、議会BCP策定プロジェクトチームの活動内容について報告します。

議会改革特別委員会

議会改革特別委員会は、議会基本条例をはじめこれまでの議会改革を検証し、更なる議会の活性化と市民の声を生かす新しい仕組みの構築を行なうことを目的に設置されています。

この一年間には、地域課題懇談会（平成28年7月20日）、ママさん議会（平成28年8月23日）、高校生議会（平成29年2月9日）を開催し、その内容については、これまでの議会だよりでも報告してきました。このような取り組みを市政に反映させる機会ととらえ、今後も各種団体、若い世代との意見交換を

続け、いただいた意見、要望を議会または議員の活動に活かしていきたいと思えます。



高校生議会（ワークショップ）

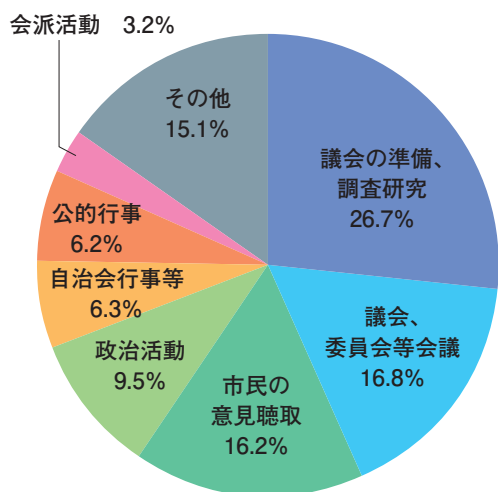
議員定数報酬検討特別委員会

定数・報酬の見直しを 検討しています

議員定数報酬検討特別委員会では、議員の定数や報酬などについて見直しを含めた検討を行ってきました。

従来からの適正な議会運営と行政の監視チェック機能に加え、政策評価や政策立案ができる議会の実現に向けて、可児市議会と議員に求められる使命を達成するための、定数・報酬・委員会体制について考え、今後、若い世代や女性、働き盛りの年代など多様な人材の参加が得られる魅力ある議会・議員の制度を目指した検討を進めてきました。

検討にあたっては、それぞれ科学的な根拠を示すことが難しいた



活動内容の内訳（可児市議員の活動量調査より）

め、全国の類似団体や近隣市議会との比較や全議員の活動量調査を行った結果を参考とするほか、外部の学識経験者からの専門的知見の活用として、名城大学昇秀樹教授、山梨学院大学江藤俊昭教授のお二人にお願いし、助言をいただきました。

今後は、さらに市民、団体等からの意見聴取を踏まえ、最終的にまとめていく予定です。

議会BCP策定プロジェクトチーム

議会BCP を策定しました

可児市議会では、このたび災害時などに行うべき議会・議員の役割や行動方針を定めた「議会BCP（業務継続計画）」を策定しました。今後は、大規模災害時においても、初期対応の高度化が図られ、災害情報の収集や議員の参集、議会としての協議、審査を迅速に開始し、機能維持を図ることが可能となりました。

BCP策定プロジェクト チームで議員間討議を展開

本計画の策定に当たっては、「議会BCP策定PT（プロジェクトチーム）」にて、災害の課題を検証しながら、議会や議員の役割や体制整備などについて、延べ7回に渡って活発に議員間で討議しました。

◆議会BCPの概要◆

○議員、議会事務局職員の行動基準の明確化

震度5以上の地震が発生した場合などの議員と議会事務局職員の行動基準や安否確認体制を整えました。

○災害時対策会議の設置

大規模災害時には、災害時対策会議を設置し、初動体制を整えるとともに、災害の発生時期に応じた議員の行動基準や災害時対策会議の指揮命令系統などを定めました。

○ケースに応じた対応方針の策定

災害発生時の議会活動の内容により、4つのケースを想定し、それぞれのケースに応じた基本的な対応方針をフローチャートにより定めました。

議長交際費と政務活動費

平成28年度議長交際費を公表

議長交際費とは、議長が議会を代表し対外的な活動をするために、予算の範囲内で支出する経費です。

なお、議長公務の内容は、議会ホームページやフェイスブック等で公開しています。

区分	件数(件)	支出額(円)
慶 祝	0	0
見 舞	0	0
弔 慰	7	56,600
会 費	25	182,700
協賛・賛助	0	0
そ の 他	0	0
計	32	239,300

平成28年度政務活動費の使い道を公表

政務活動費とは、議員の調査研究に役立てるために必要な経費の一部として交付されるもので、本市議会議員には一人当たり年額24万円が各会派へ交付されます。各会派は、毎年、収支報告書に領収書を添付し議長に報告しています。また、残額は市に返還しています。

なお、領収書などは、議会事務局で閲覧することができるほか、議会ホームページでも公開しています。

会派名	人数(人)	交付額(円)	支出額合計(円)	残額(円)
誠 颯 会	10	2,400,000	2,401,494	0
真 政 会	4	960,000	361,554	598,446
自由民主クラブ	2	480,000	221,555	258,445
日本共産党可児市議団	2	480,000	305,213	174,787
可児市議会公明党	2	480,000	191,293	288,707
市民の声	2	480,000	445,873	34,127
計	22	5,280,000	3,926,982	1,354,512

会派名	支出額	支出内訳					
		調査研究費	研修費	広聴費	資料作成費	資料購入費	事務所費
誠 颯 会	2,401,494	1,279,362	805,503	0	114,051	13,350	189,228
真 政 会	361,554	0	198,800	0	0	0	162,754
自由民主クラブ	221,555	68,704	0	0	143,337	8,580	934
日本共産党可児市議団	305,213	2,001	183,840	0	4,383	88,131	26,858
可児市議会公明党	191,293	0	77,712	0	17,135	68,912	27,534
市民の声	445,873	12,570	175,418	16,960	45,411	18,887	176,627
計	3,926,982	1,362,637	1,441,273	16,960	324,317	197,860	583,935

※誠颯会の支出額には会派負担分を含みます。

議会レポート



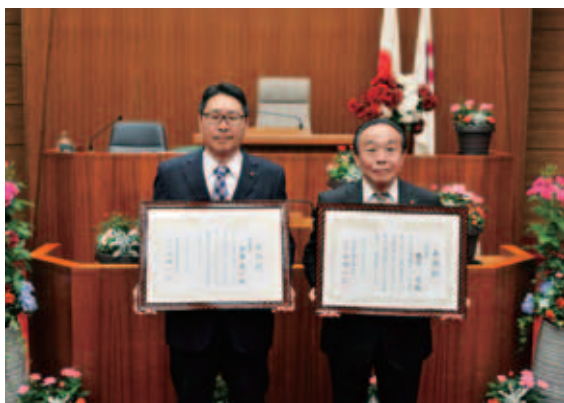
このコーナーでは、議会が本会議以外で行っているさまざまな活動を、写真で報告していきます。



▲行政視察対応

(5月10日)

可児市議会での議会改革や高校生議会の取り組み等について、他市議会から多数行政視察に来てくださいます。他市議会との交流を通じてお互い高め合っていけるとよいと思います。写真は北海道室蘭市議会の視察の様子です。



▲永年勤続表彰

(5月30日)

全国市議会議長会及び東海市議会議長会から、亀谷光議員が勤続25年以上、伊藤健二議員が勤続15年以上の表彰を受賞しました。

▼総務企画委員会視察

(4月12日)

総務企画委員会では、「防災への取り組み」について、愛知県岡崎市への行政視察を行いました。岡崎市では実践型の防災訓練や出前講座による防災意識の啓発に積極的に取り組んでいます。より実効性のある防災訓練等、本市での地域の防災力向上への取り組みに活かしていきます。



▼教育福祉委員会 懇談会

(5月22日)

教育福祉委員会は、「支援が必要な子どもたちへの教育」を主なテーマとして、教育委員との懇談会を行いました。特別支援学級の現状やこども応援センターぱあむとの連携等について知識を深め、現状での課題等について情報交換を行いました。



第4回定例会のお知らせ

8月

29日 開会日（議案説明）

29日 予算決算委員会
30日

9月

7日
8日 一般質問・質疑
11日
12日 予算決算委員会
13日
14日 総務企画委員会
15日 建設市民委員会
19日 教育福祉委員会
21日 予算決算委員会
29日 閉会日（委員長報告・討論・採決）

会議は午前9時開会の予定です。
日程は、都合により変更となる場合もあります。

地域のかがやき 地域の笑顔

帷子／公民館まつり



晴天の中 出店のにぎわい

今渡／今渡北小学校 稚鮎の放流



大きく育ててねー



チョット おじゃまします

※今回は、伊藤壽委員と渡辺仁美委員が、地域の子どもたちにおいしい食事と居場所を提供する「姫こども食堂」の方々にその活動内容をお聞きしました。

広報委員：どんな思いでこの活動を始められましたか。

村井さん：長年給食センターで働く中で、欠食児童がいることを知り、そのような子たちにせめて温かいご飯とみそ汁を食べさせてあげたいとずっと思ってきました。1年前にこども食堂をやってみないかと声をかけられ、迷いましたが、周りから「いいことだからやろうよ」と背中を押してもらい、仲間と始めることにしました。

広報委員：始めてから1年がたち、普段と違うこども食堂もされたと聞きました。

村井さん：はい。6月のこども食堂では子どもたちといっしょに調理室に入り、五平餅やケーキを作って食べました。

広報委員：この活動を始められてよかったことは何ですか。

村井さん：温かい食事をお友だちや地域の人たちといっしょに楽しく食べることを通して、子どもたちの心に寄り添うことができたように思えることです。食事の後は地域の歴史を学んだり、ゲームをしたりします。毎回20名ほどの子どもが集まってくれて、中には家族で参加してくれることもあります。子どもたちの元気な姿を見るとうれしくなります。

取材を終えて

村井さんをはじめ運営に携わる18名全員が、地域づくりの担い手であることを意識して活動していらっしゃいます。このような活動が他の地域でも取り組まれることを願いながら取材を終えました。

